Yachiyo city
Tokyo Bay
CHIBA Pre.

埋もれ

No.18
千葉県八千代市
埋蔵文化財通信
2009.1.30

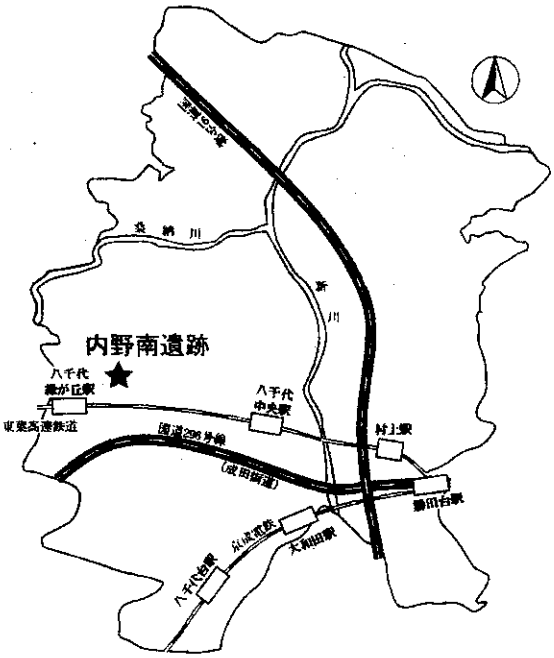
内野南（うちのみなみ）遺跡特集

東葉高速鉄道の緑が丘駅周辺は、かつて縄文時代を中心とする遺跡が多くありました。そうした遺跡の１つに内野南遺跡があります。先ごろ、ｄ地点の発掘調査報告書が刊行されたこともあり、今回は、内野南遺跡について紹介します。

［内野南遺跡の位置］　内野南遺跡は、八千代市の西部、吉橋に所在し、桑納川の支流の花輪川などで区切られた南北に細長い台地の奥に立地しています。標高は25m～29mで、緩やかな斜面地と上りきった平坦面に広がっています。緑が丘一帯は、西八千代土地区画整理事業に関連して、昭和61年から63年にかけて遺跡調査会が発掘調査を行ってきた地区であり、現在も、東葉高速線北側の吉橋地区では、千葉県教育振興財団によって大規模な発掘調査が行われています。内野南遺跡の周辺には仲ノ台遺跡、ヲイノ作南遺跡、ヲイノ作遺跡、芝山遺跡などが連なり、西八千代遺跡群などとも呼ばれています。

［遺跡の概要］　内野南遺跡は旧石器時代～奈良時代に至る遺跡（複合遺跡）で、これまでに４地点の調査が行われてきました。それぞれの地点の場所や調査されたものは、表や地図のとおりですが（次ページ参照）、やはり、縄文時代を中心とした遺跡と言えるでしょう。縄文時代を中心に時代順に見ていきたいと思います。

まず、縄文時代の早期（約9,000年前～



6,000年前）ですが、撚糸文系土器（約9,000年前）や沈線文系土器（約8,000年前）と呼ばれる土器が出土しているので、この頃から人々が遺跡周辺を行き通うようになったのでしょう。人々が住みついたのは、早期後半の条痕文系土器（約7,000年前）が出土する頃からのようで、この時期の竪穴住居跡が３軒見つかっています。この頃の住居は、不整形や四角形の地面への掘り込みが浅い竪穴住居で、屋内に炉がありません。その代わりでしょうか、屋外に火を燃やした跡（炉穴）が、10か所見つかっています。さらに屋外で焼けた石がたくさん出土するのもこの時期の特徴ですが、内野南遺跡でもそうした石（焼礫）が多数出土しています。

縄文時代の前期（約6,000年前～5,000年前）になると、住居が５軒見つかってます。

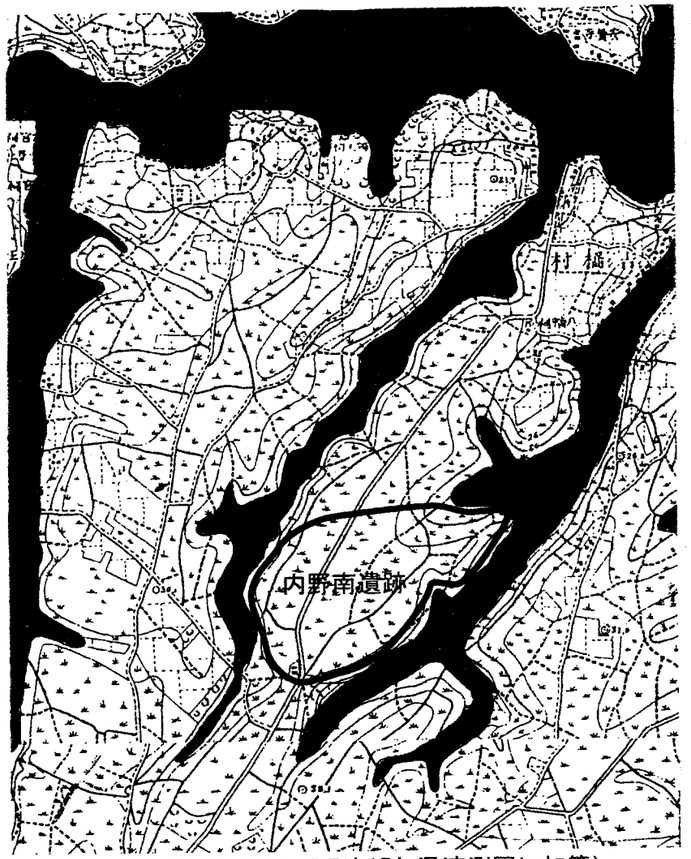
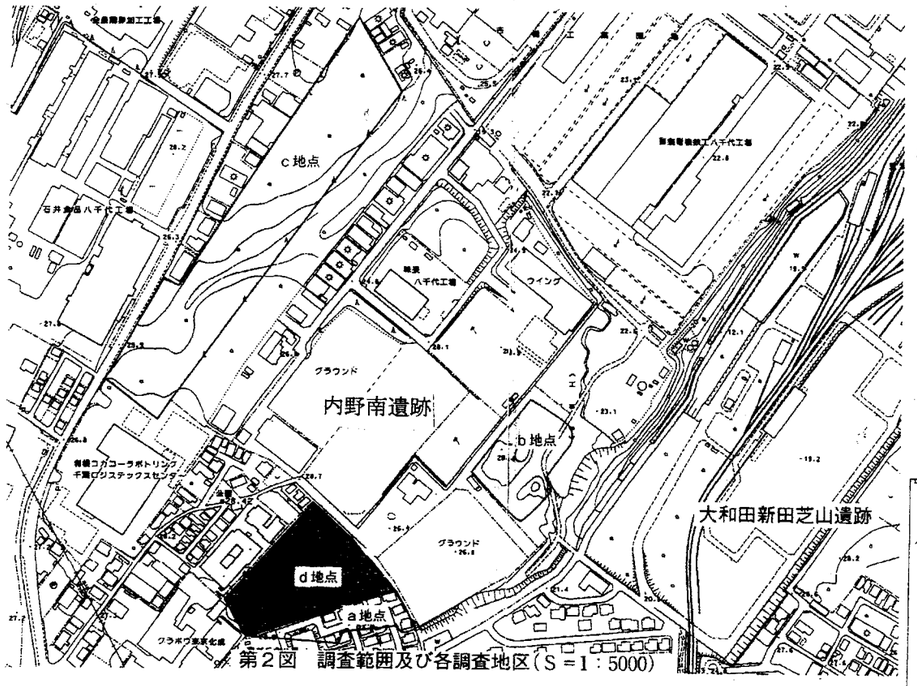
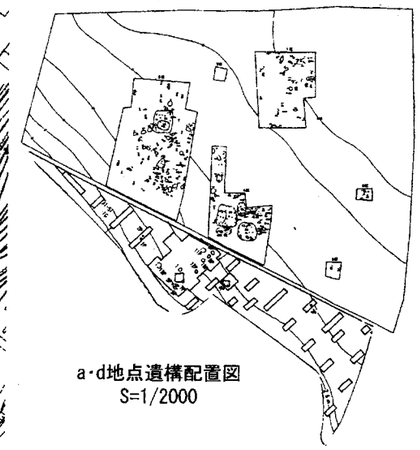


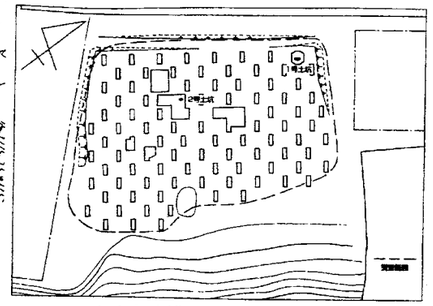
図１　周辺地形図（明治15年迅速測図に加筆）



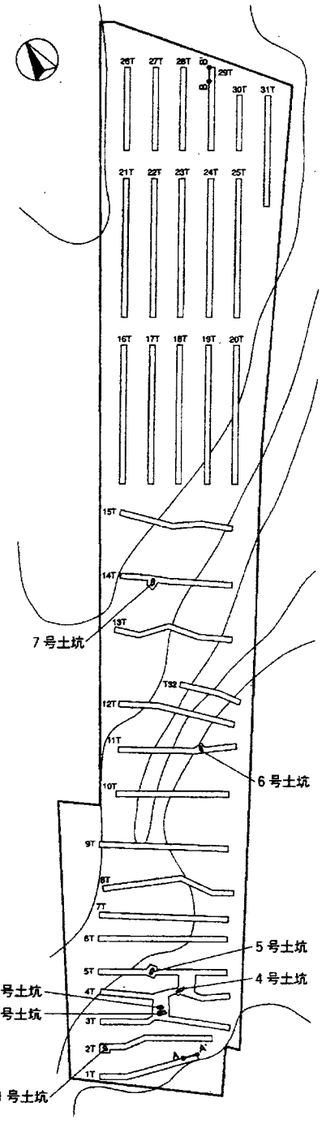
第２図　調査範囲及び各調査地区（S＝1：5000）



a･d地点遺構配置図
S=1/2000



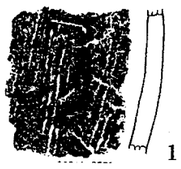
b地点遺構配置図　S=1/2000



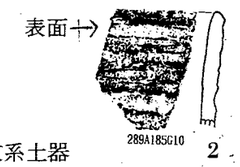
c地点遺構配置図　S=1/2000

内野南遺跡 地点別　　遺構一覧

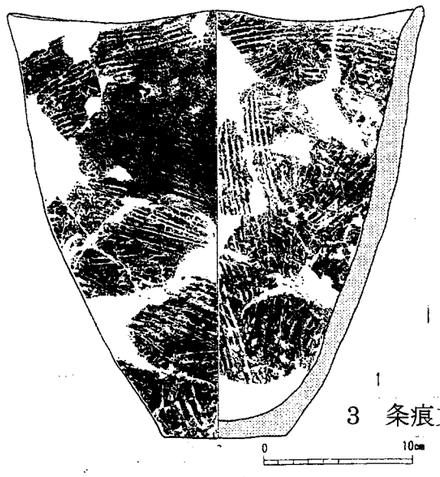
	縄文時代				奈良時代
	落とし穴	炉穴（ろあな）	竪穴住居跡	土坑（どこう）	竪穴住居跡
a地点		5		8	1
b地点	1			1	
c地点	5			2	
d地点	1	5	8	182	
合　計	7	10	8	193	1



1　撚糸文系土器

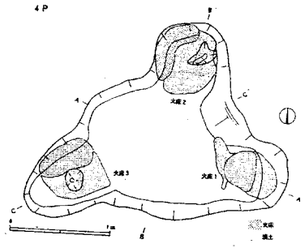


2　沈線文系土器

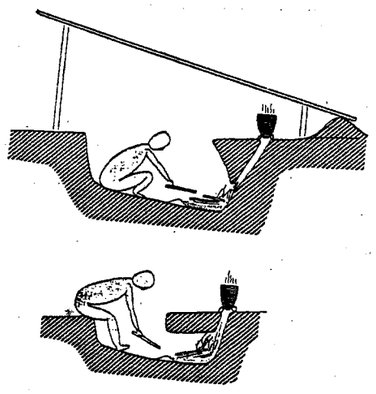


3　条痕文系土器

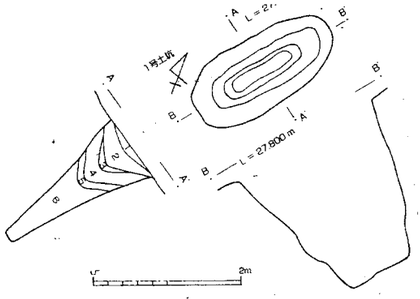
内野南遺跡出土縄文時代早期の土器　S=1/4



a 地点　4P　炉穴　S=1/60(上)



炉穴のイメージ（右）



b 地点　1P　落し穴　S=1/80

[土器の説明]

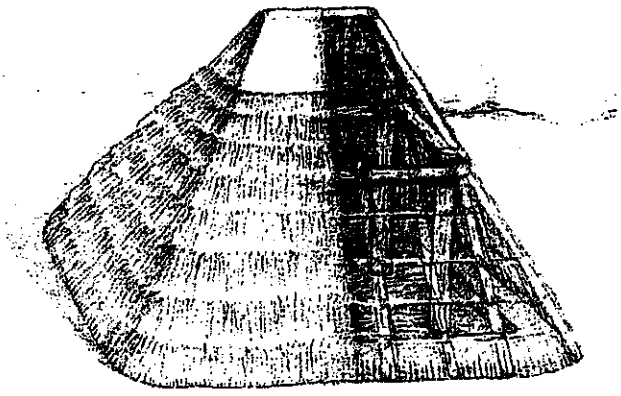
1　9,000 年前～8,000 年前の土器で、縄を棒にコイルのように巻きつけ、それを転がして模様をつけます。

2　8,000 年前～7,000 年前の土器で、棒などの工具で横走する溝や幾何学的な模様をつけます。

3　7,000 年前～6,000 年前の土器で、貝殻の腹で器面の表裏に模様をつけます。粘土に植物を混ぜて焼くことが多い。

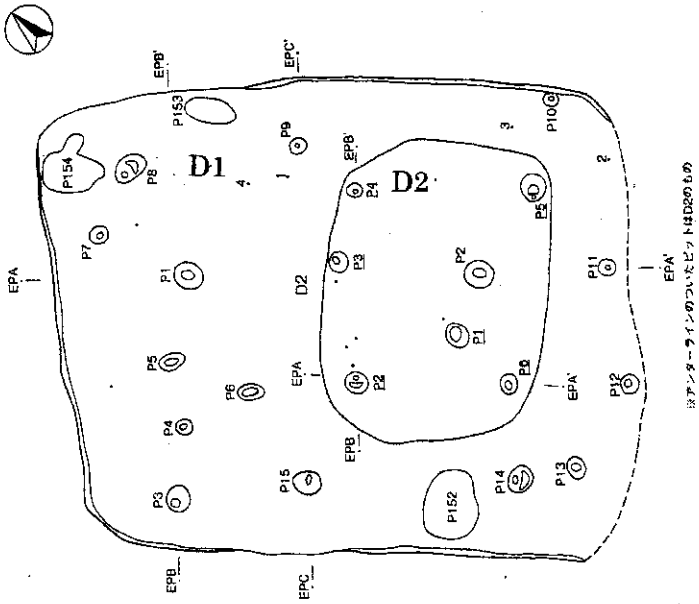
※　早期の土器は、底が尖っているものが多く、尖底土器などとも呼ばれています。

縄文時代　狩りの風景（イラスト　佐藤喜一郎氏）
（『千葉県の歴史　考古１』より）



竪穴住居跡の復元図

（イラスト　佐藤喜一郎氏『千葉県の歴史　考古１』より）



d 地点　D1・D2　竪穴住居（縄文前期）S=1/100

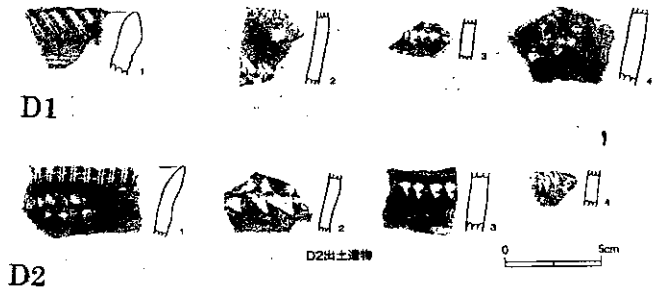
この頃の住居にも、まだ炉はありません。住居の屋内に炉をつくることが定着したのは、縄文時代中期（約 5,000 年前～4,000 年前）以降のことのようです。

興味深いのは、これらの住居が遺跡の標高 26～27ｍの低いところに集中していることです。それ以上高いところにはケモノを捕獲するための落し穴が見つかっています。遺跡内で土地利用の違いが見えてきます。

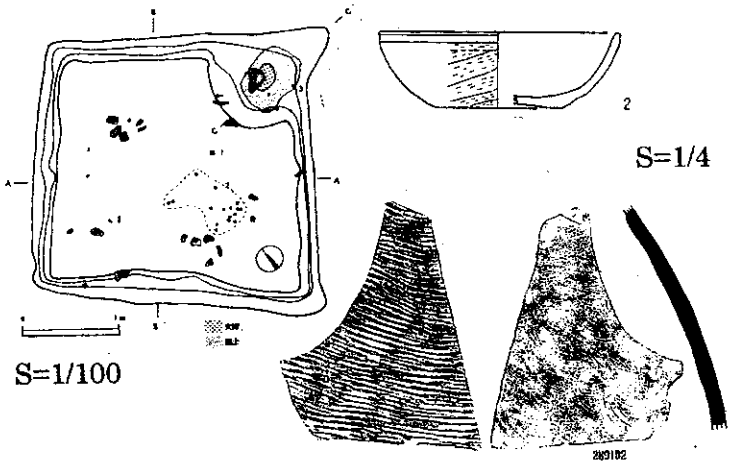
縄文時代中期以降になると人々の痕跡が少なくなりますが、それでも縄文土器が少量ながら出土しているので、何らかの理由で人々が立ち寄っていたことがわかります。そして、縄文時代晩期（約 3,000 年前）～古墳時代（約 1,700 年前）は、人々の痕跡がほとんどなくなり、奈良時代になると、再び竪穴住居が見つかります。

平安時代になると再び、長らく人々の痕跡がなくなり、昭和・平成に至り、工業団地や住宅街が造られ現在の緑が丘のようになりました。

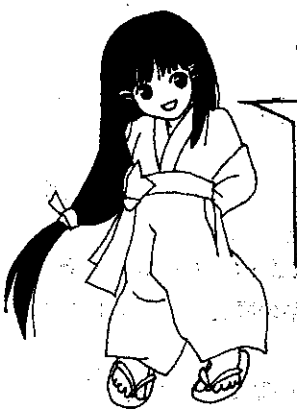
皆さんのお宅の下にも、かつて、遺跡があったかもしれません。（宮澤）



D1・D2　出土遺物　S=1/4



a 地点　D1 竪穴住居（奈良時代）と出土遺物



次回は、村上の辺田前土地区画整理事業の際に調査が行われた浅間内遺跡の続編を特集します。

埋（まい）やちよ　No.18
－千葉県八千代市埋蔵文化財通信－
平成２１年　１月３０日
編集・発行　八千代市教育委員会
教育総務課　文化財班
八千代市大和田１３８－２
〒276-0045　☎047(481)0304